授業科目	病理学 B	担当教員	曾我部　いづみ		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人体の構造と機能において正常から逸脱する症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。				
到達目標	疾患の成り立ちから回復の過程までを体系的に説明することができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	定期試験等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	病態論を参考書を元に解説します。救急救命士標準テキストとも照らし合わせながら進めていく。救急救命士標準テキストは、予習を行う際に活用すること。 ①遅刻・中途退室 ②私語・携帯の電源 ③居眠り ④提出物 ⑤その他　授業の進行に差し障りのある行為に対する諸注意。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	病理学概論	疾病の一般
	2	病理病態論	炎症・感染症（1）
	3	病理病態論	炎症・感染症（2）
	4	病理病態論	循環障害（1）：概要と局所循環障害
	5	病理病態論	循環障害（2）：局所循環障害
	6	病理病態論	細胞障害（1）：退行性病変と進行性病変
	7	病理病態論	再生と創傷治癒
	8	病理病態論	細胞障害（2）：代謝障害と疾病
	9	病理病態論	免疫（1）
	10	病理病態論	免疫（2）
	11	病理病態論	腫瘍
	12	病理病態論	先天異常(1)
	13	病理病態論	先天異常(2)
	14	病理病態論	老化
	15	病理病態論＆まとめ	病因：生理学的要因、これまでのまとめ

授業科目	病理学 B	担当教員 実務経験	曾我部いづみ 有：■　　無：□	歯科医師であり、大学病院において口腔外科医員として勤務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	形態機能学Ⅰ(解剖、身体機能)A	担当教員	松井　公汰		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	各器官の構造と機能を学ぶことにより、その後に学ぶ救急医学の基礎を作ること。				
到達目標	正常な人体の肉眼的構造を学び、その機能について理解する。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・生体のしくみ　第 3 版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	30	

履修上の留意事項	人体臓器の位置構造をしっかりと学ぶ。教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用いて講義を行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	解剖学序論	講義オリエンテーション
	2	身体を構成する要素	細胞　組織　器官　体液
	3	体表からみる人体の構造	人体の位置・方向、体表からみた構造・名称、身体の各部位
	4	神経系	神経系の構成、中枢神経系　末梢神経　自律神経　脳神経
	5	感覚系	視覚器、平衡聴覚器、味覚器、臭覚器
	6	呼吸系	気道　胸郭　肺　ガス交換　呼吸の働き
	7	循環系	循環系の構成　心臓　脈管　循環の制御
	8	消化系	口腔・咽頭　消化管　　肝臓・胆道係　膵臓　腹膜・腹腔
	9	泌尿系	腎臓、尿管、膀胱、尿道、
	10	中間確認	人体の構造～泌尿系（問題演習）
	11	生殖系	男性生殖器　女性生殖器
	12	内分泌系	内分泌器官　　ホルモン
	13	血液・免疫系	血液　血球　血漿　骨髄　脾臓　止血と凝固　免疫
	14	筋・骨格系	四肢の主な骨格筋　骨・関節　靭帯・腱　脊柱の構造
	15	皮膚系	皮膚の構造　皮膚の役割
	16	生命維持	栄養素と代謝　恒常性
	17	講義のまとめ	練習問題
	18	解剖学総合演習	人体の構造と機能
	19	解剖学総合演習	神経系
	20	中間確認	生殖系～生命維持（問題演習）
	21	解剖学総合演習	呼吸系
	22	解剖学総合演習	循環系
	23	解剖学総合演習	消化系

	24	解剖学総合演習	泌尿系
	25	解剖学総合演習	内分泌系
	26	解剖学総合演習	血液・免疫系
	27	解剖学総合演習	国試頻出問題
	28	解剖学総合演習	練習問題
	29	解剖学総合演習	練習問題
	30	総合確認	問題演習

授業科目	形態機能学Ⅰ(解剖、身体機能)A	担当教員 実務経験	松井　公汰 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理科総合 B	担当教員	輕部　諭		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	医療の基礎となる生理学・生物学を理解する。身体の概要・細胞・遺伝・生体防御の基本的な事柄を理解する。				
到達目標	生理・生化学で使う化学式、化学反応を活用できる。細胞、人体の基本的機能を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・サイエンスビュー生物総合資料　4 訂版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項

物理・化学、生理学・生物学の基礎的・基本的事項を板書やプリント等を使いながら、学習をすすめていく。学習に関連した演習問題を授業の中で扱い、小テストを実施。これから先、生理学・生物学をしっかり学ぶと、理解度が断然違ってくる。医療基礎としてしっかり身に付けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	化学	原子構造、原子量、分子量、物質量、溶液の濃度
2	化学	化学結合・化学反応、酸・塩基、酸化還元、水素イオン指数，加水分解
3	生物学	糖、蛋白質、脂肪、ATP
4	生物学	細胞・DNA・タンパク質
5	生物学	神経系
6	生物学	循環系、肝臓・腎臓
7	生物学	呼吸器、消化器
8	生物学	ホルモンによる調整、内部環境と恒常性
9	生物学	生体防御
10	物理学（力と仕事）	物体の変形・剪断、位置エネルギー・運動エネルギー、高エネルギー事故

授業科目	理科総合 B	担当教員 実務経験	輕部諭 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	形態機能学 II (生理、生化学)B	担当教員	中川　健斗		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人体を構成している細胞に共通する生理機能と血液の組織、免疫等を理解し、生命現象の基本である呼吸、循環の機能および消化、吸収、排泄の仕組みを理解する。				
到達目標	人体の作りと役割を細胞、組織の概念から説明できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・生体のしくみ　第 3 版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急救命士標準テキストを中心に、参考書を使用しながら進めていく。予習・復習をしっかりしないと定期試験に影響する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生理学総論・情報の伝達	細胞の構造と機能・細胞内外間の物質の移動 興奮の発生と伝道・シナプス伝達・細胞内情報伝達
	2	筋系	筋収縮のメカニズム（骨格筋・平滑筋・心筋）
	3	神経系	神経の構造・中枢神経系（脳、脊髄)、末梢神経系
	4	血液系・免疫系	血液の成分と働き（赤血球・血小板）免疫のしくみ・白血球の役割・アレルギー
	5	循環器系	循環器系のしくみと働き・血管の構造と機能・血圧・リンパ液の働き
	6	呼吸器系	呼吸器系の構造・呼吸筋の働き
	7	消化器系	消化管の構造と機能・消化と吸収
	8	泌尿器系	腎臓の基本的機能・ネフロン・腎不全・利尿薬
	9	内分泌系	内分泌総論・HPA　axis・甲状腺ホルモン・膵臓ホルモンと糖尿病・性ホルモンなど
	10	生化学総論・糖類・糖質代謝	糖質の分類・グルコースの化学構造・解糖系・TCA 回路・電子伝達系・糖新生
	11	生化学総論・糖類	糖質の分類・グルコースの化学構造
	12	脂質代謝	脂質代謝・ケトン体・脂肪酸の生合成・コレステロールの生合成
	13	タンパク質・アミノ酸	タンパク質の分類・アミノ酸の分類・タンパク質代謝・アミノ酸代謝・尿素回路
	14	核酸の性質・DNA・タンパク質合成	核酸塩基の分類・DNA の構造・DNA の合成・mRNA の合成・タンパク質の合成
	15	ビタミン	ビタミンの分類（脂溶性、水溶性)、役割

授業科目	形態機能学Ⅱ(生理、生化学)B	担当教員 実務経験	中川健斗 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	薬理学 A	担当教員	吉田　楓		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	救急医療に必要な薬物の知識を習得する。				
到達目標	薬物とは何か、薬物の体内動態、投与経路の違いについて説明できる。 アドレナリン・乳酸リンゲル液・ブドウ糖の薬理作用を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・クイックマスター薬理学（購入不要） ・図解薬理学（購入不要）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	プリントを中心に講義形式で行う。評価は試験の成績、各授業ごとに行う簡単な小テスト、参加態度などを総合的に判断する。詳細は初回の授業で説明。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	薬理学の基礎	薬理学の概要、薬物と法令、薬物と作用、薬物受容体
	2	薬物動態	薬物の吸収・分布・代謝・排泄
	3	薬理作用に影響を与える要因	薬理作用に影響を与える要因
	4	自律神経系	交感神経作用薬、副交感神経作用薬
	5	中枢神経系	向精神薬
	6	物質代謝系	内分泌系、糖代謝と糖尿病治療薬、輸液製剤
	7	心臓血管系	高血圧治療薬、狭心症治療薬、抗凝固薬
	8	日常的によく使われる薬	抗炎症薬、抗アレルギー薬、感染症治療薬
	9	まとめ①	問題演習
	10	まとめ②	問題演習

授業科目	薬理学 A	担当教員 実務経験	吉田楓 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	健康と社会保障 B	担当教員	今谷　正則		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	わが国の保健・医療に関する業務とそれを支える諸制度を理解し、そこにおいて救急救命業務はどのような位置を占め、救急救命士はどのような役割を受け持っているかを十分に理解する。関連分野の業務とそれに関わる法規について概要を学ぶ。				
到達目標	保健医療制度の仕組みと現状について説明ができる。 社会保障と社会福祉を支える仕組みについて説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・プリント資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	定期試験・課題提出状況等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	従来保健医療従事者にとって、保健医療（公衆衛生）に関する制度や関係法規は関心が薄い等、理解が難しい分野といわれてきたが、憲法にも規定されているように、保健医療（公衆衛生）は社会福祉とともに国民の健康な生活を保障するための社会保障制度を構成する柱であり、現在では理論や技術だけではなく、社会政策と考えられるようになってきていることを理解して勉学に励んでもらいたい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	保健医療制度（1）	医療を取り巻く環境
	2	保健医療制度（2）	医療供給体制
	3	保健医療制度（3）	公衆衛生
	4	保健医療制度（4）	環境保健
	5	保健医療制度（5）	労働衛生・学校保健
	6	保健医療制度（6）	母子保健
	7	保健医療制度（7）	老人保健
	8	保健医療制度（8）	地域保健
	9	保健医療制度（9）	国民医療費の動向、給付率と負担率
	10	保健医療関係法規（1）	医療法・医師法・保健師助産師看護師法・救急救命士法
	11	保健医療関係法規（2）	薬事法・臓器移植法・感染症法（予防接種法）・健康増進法
	12	社会保障と社会福祉（1）	社会保障と社会福祉の概念・社会保障給付と国民負担
	13	社会保障と社会福祉（2）	社会福祉関係法規・社会福祉の現状
	14	保険制度（1）	医療保険制度
	15	保険制度（2）	介護保険制度・年金制度

授業科目	健康と社会保障 B	担当教員 実務経験	今谷正則 有：■　　無：□	保健所において衛生行政に携わり、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心肺停止ＩA	担当教員	三上　剛人		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	心肺停止の病態に関する基礎知識を学ぶ。				
到達目標	①日本における心肺停止の現状を知る ②心肺蘇生に必要な用語を覚える ③心肺蘇生の手順を知る ④医療者向け BLS を手順通りに実施できる				
テキスト・参考図書等	・救急蘇生法の指針 2020（医療従事者用） ・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	筆記試験 80% 科目試験・レポート 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	心肺停止の現状を調べ学習します。 心肺停止を医学的根拠を基に解説していきます。 BLS アルゴリズムに則った演習で基本的な実技を習得します。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	原因と病態	心停止、呼吸停止後の病態
	2	心停止の易学	時間的要因、蘇生の可能性
	3	心停止の心電図	心静止・VF・PEA、重症不整脈
	4	心停止の判断	呼吸観察、循環観察、DNAR
	5	蘇生	根拠と方法
	6	BLS	BLS の手順解説
	7	BLS	BLS 実技指導
	8	BLS	BLS 実技指導

授業科目	心肺停止ＩＡ	担当教員 実務経験	三上剛人 有：■　　無：□	救命救急センターにおいて看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎演習 B	担当教員	荒谷　和興		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	救急救命士として必要な規律や集団行動を体験し習得する。各種搬送法・創傷処置等の基本的な処置を習得する。				
到達目標	基本的ロープ結索や救急処置（止血・被覆・固定・体位管理・保温・搬送）を適切に実施できる。 山岳研修やライフセービングといった現場活動実習を通じてチームとしての協調ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル ・その他				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・項目ごとに行う効果測定等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	各種実習での体験を通じて各種基本を習得する。各個の動作一隊として一団体行動と、規律ある行動をすること。清潔感（服装・頭髪等)、規律ある行動に十分配意すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（1）	はじめに（基礎演習全般の説明・頭髪、爪、服装について）
	2	オリエンテーション（2）	号令要領、番号のかけ方（人員確認)、整列の仕方（基本の姿勢、整列休めの姿勢）
	3	訓練礼式（1）	小隊編成（横隊の集合要領、横隊の整頓、横隊の右（左）向き、解散）
	4	訓練礼式（2）	敬礼動作（挙手注目の敬礼、最敬礼、15 度の敬礼、かしら中（右、左)）
	5	訓練礼式（3）	右（左）向け、半ば右(左）向け、後ろ向き（まわれ右）
	6	訓練礼式（4）	かけ足行進・停止、職員室入退室要領
	7	訓練礼式（5）	通常点検要領
	8	訓練礼式（6）	通常点検要領
	9	ロープ結索（1）	基本結索（本結び、巻き結び、ひとえ結び、もやい結び、二重もやい結び）
	10	ロープ結索（2）	基本結索（本結び、巻き結び、ひとえ結び、もやい結び、二重もやい結び）
	11	ロープ結索（3）	器具結索（ボンベ、かけや、他）
	12	ロープ結索（4）	器具結索（ボンベ、かけや、他）
	13	確認試験	訓練礼式・ロープ結索
	14	確認試験	訓練礼式・ロープ結索
	15	創傷の処置（1）	三角巾を使用した固定・被覆・止血処置
	16	創傷の処置（2）	骨折の処置（副木固定)、バキュームスプリントによる固定
	17	各種搬送法（1）	メインストレッチャー、サブストレッチャー
	18	各種搬送法（2）	スクープストレッチャー、布担架
	19	傷病者の管理（1）	体位の管理（仰臥位、坐位、腹臥位、側臥位、ショック体位）
	20	傷病者の管理（2）	頸椎カラー固定、全身固定

	21	各種搬送法（1）	徒手搬送（支持搬送・抱き上げ搬送）
	22	各種搬送法（2）	応急担架（毛布・衣服・棒）、傾斜のある場所での搬送
	23	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
	24	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
	25	救急隊現場活動（1）	傷病者接触までの確認事項（情報共有、環境観察、傷病者の確認）
	26	救急隊現場活動（2）	問診と聴取（OPQRST、SAMPLER を使用した問診）
	27	救急隊現場活動（3）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	28	救急隊現場活動（4）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	29	救急隊現場活動（5）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	30	救急隊現場活動（6）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	31	山岳研修（1）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	32	山岳研修（2）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	33	山岳研修（3）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	34	山岳研修（4）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	35	救急隊現場活動（7）	気道確保（口腔内清拭、吸引、異物除去）、用手気道確保
	36	救急隊現場活動（8）	エアウエイ、酸素投与、器具による人工呼吸、補助呼吸
	37	救急隊現場活動（9）	胸骨圧迫（成人、小児、乳児、新生児）
	38	救急隊現場活動（10）	胸骨圧迫（成人）
	39	救急隊現場活動（11）	BVM による人工呼吸
	40	救急隊現場活動（12）	BVM による人工呼吸
	41	救急隊現場活動（13）	胸骨圧迫と人工呼吸
	42	救急隊現場活動（14）	胸骨圧迫と人工呼吸
	43	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
	44	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
	45	ライフセービング（1）	海での救助
	46	ライフセービング（2）	海での救助

授業科目	基礎演習 B	担当教員 実務経験	非常勤講師 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生命と健康 B	担当教員	本間　宗一郎		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・生命と健康をめぐる現代社会の諸問題を倫理的視点から考える方法を学ぶ。				
到達目標	・倫理学・生命倫理学の基本的な用語・考え方を理解し、その理解に基づいて生命医療の諸問題に対する自身の考えを述べられるようになる。				
テキスト・参考図書等	・スライド資料を用意する ・参考図書：改訂版　入門・医療倫理（赤林朗編、勁草書房、2017 年)、はじめて出会う生命倫理（玉井・大谷編、有斐閣、2011 年）				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	0	レポート・提出物等を基に総合的に評価する。
レポート	70	
小テスト	0	
提出物	30	
その他	0	

履修上の留意事項

適宜参考文献を紹介するので可能な範囲で目を通して問題の背景を理解することが望ましい。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	イントロダクション	講義内容の概観、進め方、評価基準、生命倫理学についての説明など
2	倫理学概論	倫理学という学問がどのようなものかについての説明
3	規範倫理学①　帰結主義	幸福・不幸に代表される帰結を重要視する帰結主義についての検討
4	規範倫理学②　義務論	帰結に尽きない要素を重要視する義務論についての検討
5	規範倫理学③　徳倫理学	有徳な者の行為を範例とする徳倫理学についての検討

	6	生命倫理①　健康・病気・障害	医療が向き合う健康・病気・障害とは何かについての吟味
	7	生命倫理②　インフォームド・コンセントと自律	インフォームド・コンセントの意義と自律にまつわる諸問題の検討
	8	生命倫理③　生殖医療	生命の誕生にまつわる自己決定と諸問題の検討
	9	生命倫理④　終末期医療と安楽死・尊厳死	死の間際における自己決定と諸問題の検討
	10	まとめ	これまでの内容の復習と補足、期末レポートの説明

授業科目	生命と健康 B	担当教員 実務経験	本間宗一郎 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急病態生理学ⅠB	担当教員	田中　則之		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	疾患にかかると、さまざまな自覚症状、第三者によって認められる徴候がみられる。これらは疾患の根底に存在する、生体の機能が病的に変化した状態を反映する。ここでは、患者さんから現れる症状と徴候を学んでいく。よく遭遇する重要な症状・徴候の理解と対処の方法を習得する。				
到達目標	症状、所見から病態鑑別を行い、必要な救急処置ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	
	救急疾患に関係の深い病態を中心に行う講義であり、他の病態にも関連性の高い内容となっている。今後の授業の理解度を上げるためにも、内容を理解するため、毎回しっかり予習・復習をすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	呼吸不全①	原因と病態生理、症候
	2	呼吸不全②	原因と病態生理、症候
	3	呼吸不全③	原因と病態生理、症候
	4	心不全①	原因と病態生理、症候
	5	心不全②	原因と病態生理、症候
	6	心不全③	原因と病態生理、症候
	7	ショック①	原因と病態生理、症候
	8	ショック②	原因と病態生理、症候
	9	ショック③	原因と病態生理、症候
	10	重症脳障害①	原因と病態生理、症候
	11	重症脳障害②	原因と病態生理、症候
	12	重症脳障害③	原因と病態生理、症候
	13	心肺停止①	原因と病態生理、症候
	14	心肺停止②	原因と病態生理、症候
	15	心肺停止③	原因と病態生理、症候

授業科目	救急病態生理学ⅠB	担当教員 実務経験	田中則之 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	健康と社会保障 A	担当教員	今谷　正則		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	わが国の保健・医療に関する業務とそれを支える諸制度を理解し、そこにおいて救急救命業務はどのような位置を占め、救急救命士はどのような役割を受け持っているかを十分に理解する。関連分野の業務とそれに関わる法規について概要を学ぶ。				
到達目標	保健医療制度の仕組みと現状について説明ができる。 社会保障と社会福祉を支える仕組みについて説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・プリント資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	定期試験・課題提出状況等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	従来保健医療従事者にとって、保健医療（公衆衛生）に関する制度や関係法規は関心が薄い等、理解が難しい分野といわれてきたが、憲法にも規定されているように、保健医療（公衆衛生）は社会福祉とともに国民の健康な生活を保障するための社会保障制度を構成する柱であり、現在では理論や技術だけではなく、社会政策と考えられるようになってきていることを理解して勉学に励んでもらいたい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	保健医療制度（1）	医療を取り巻く環境
	2	保健医療制度（2）	医療供給体制
	3	保健医療制度（3）	公衆衛生
	4	保健医療制度（4）	環境保健
	5	保健医療制度（5）	労働衛生・学校保健
	6	保健医療制度（6）	母子保健
	7	保健医療制度（7）	老人保健
	8	保健医療制度（8）	地域保健
	9	保健医療制度（9）	国民医療費の動向、給付率と負担率
	10	保健医療関係法規（1）	医療法・医師法・保健師助産師看護師法・救急救命士法
	11	保健医療関係法規（2）	薬事法・臓器移植法・感染症法（予防接種法）・健康増進法
	12	社会保障と社会福祉（1）	社会保障と社会福祉の概念・社会保障給付と国民負担
	13	社会保障と社会福祉（2）	社会福祉関係法規・社会福祉の現状
	14	保険制度（1）	医療保険制度
	15	保険制度（2）	介護保険制度・年金制度

授業科目	健康と社会保障 A	担当教員 実務経験	今谷正則 有：■　　無：□	保健所において衛生行政に携わり、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療機器管理 A	担当教員	三上　剛人		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	救急患者を取り巻く医療機器の必要性、重要性を理解する。				
到達目標	関連する医療機器の目的と取り扱い方法を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80%	ノート持ち込み式の筆記試験　80% 作成ノート評価　20% ※直筆のノートのみ持ち込み可能です。コピーの貼り付けなどは認めていません。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	20%	
その他	0	

履修上の留意事項	医療機器操作の基本から、種々の機器に関する取り扱い、原理を学んでいきます。医療業界にはたくさんの医療機器があります。機械を使うことは、とても便利で正確に医療を提供する方法のひとつですが、使用方法をひとつ間違えると、死にいたる危険なものもたくさんあります。しっかり学んでいきましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	医療機器管理概論　（臨床工学士))	医療用電源と一般電源の違いや救急医療の医療機器に必要な知識全般を開設します。
2	パルスオキシメーター・除細動・人工呼吸器　1	全 3 回を使って、上記の調べ学習、発表を行います。
3	パルスオキシメーター・除細動・人工呼吸器　2	グループ演習
4	パルスオキシメーター・除細動・人工呼吸器　3	グループ演習・プレゼンテーション
5	心電図・除細動	12 誘導心電図、モニター心電図、除細動について学びます。
6	心電図・除細動	12 誘導心電図、モニター心電図、除細動について学びます。
7	輸液ポンプ・シリンジポンプ・血糖測定器	原理、構造、適応、注意点等、演習を交えます。
8	在宅医療で使用する医療機器　（三上）	病院と在宅の違い。在宅機器操作時の注意点など
9	超音波検査の理解	超音波エコーについて知識を獲得します。
10	まとめ　（三上）	これまでの講義のまとめと総合問題演習
11		

授業科目	医療機器管理 A	担当教員 実務経験	本吉竜浩 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器の安全管理業務に従事しており、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	表現基礎 A	担当教員	湊　久恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公務員試験の作文や実習の日誌、レポートなどを体裁良く書ける。				
到達目標	漢検 3 級以上を取得する。公務員試験に合格する国語力をつける。				
テキスト・参考図書等	・漢検　漢字学習トレーニング 3/準 2/2 級　改訂第二版　（日本漢字能力検定協会　編） ・オリジナルプリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験、小テスト、提出物の評価基準　（100 点満点に換算） 評価基準 A（十分に満足）　80 点以上 評価基準 B（おおむね満足）　60～79 点 評価基準 C（努力を要する）　59 点以下 定期試験・小テスト・提出物等を基に総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	10	
その他	10	

履修上の留意事項	・手書きでの提出物は楷書で丁寧に書き、鉛筆は濃いもの（B か HB）を使用すること。　・初心を忘れず、私語、携帯の使用、居眠りなどはしないように。　・課題の未提出及び提出に値しない内容のものは、再提出とする。　・漢字検定は必ず 3 級を取得すること。3 級既得者は、1 ランク上の級を取得すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	作文 1	現在の自分の作文力を知る
2	作文 2	作文のルール
3	作文 3	高校の恩師への手紙、意見を述べる
4	作文 4	封筒の書き方など手紙のルール
5	作文 5	作文のルールにより実作
6	作文 6	読む人を意識する
7	作文 7	わかりやすい文章とは 1
8	作文 8	わかりやすい文章とは 2
9	作文 9	指示語
10	作文 10	内容のまとまり
11	作文 11	選ぶべき題材
12	作文 12	文章の構成
13	作文 13	本番のように書いてみる
14	レポートの書き方	実習日誌やレポートの意義
15	面接カード、エントリーシートの書き方	書き方一つで合否に影響

授業科目	表現基礎 A	担当教員 実務経験	湊久恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急処置 A	担当教員	荒谷　和興		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	158 回	時間数	315 時間
授業目的	救急活動は症状・病態に適応した救急資器材を選定し適正に活用することが重要であることから、救急活動、病態及び取扱資器材の特性を理解する。				
到達目標	傷病者の状況を多方面から捉えることが出来る観察力と判断力、病態鑑別に必要な考察力を身につけ、適切な処置及び病院選定を行うことが出来る。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	各項目ごとに実施される試験等の結果を基に総合的に評価する
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急活動の中から病態を理解する。 病態に合わせた救急活動実技が主体。 メディカルラリーを通じた、模擬現場活動を実施する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	救急処置の進め方について
	2	オリエンテーション	救急処置の進め方について
	3	感染症対策①	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	4	感染症対策②	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	5	感染症対策③	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	6	感染症対策④	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	7	感染症対策⑤	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	8	感染症対策⑥	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	9	感染症対策⑦	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	10	感染症対策⑧	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	11	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	12	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	13	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	14	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	15	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	16	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	17	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	18	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	19	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	20	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成

	21	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	22	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	23	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	24	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	25	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	26	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	27	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	28	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	29	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	30	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	31	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	32	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	33	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	34	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	35	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	36	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	37	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	38	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	39	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	40	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	41	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	42	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	43	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	44	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	45	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	46	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	47	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	48	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	49	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	50	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	51	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	52	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	53	CBL（ケースベースラーニ	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成

		ング）	
	54	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	55	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	56	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	57	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	58	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	59	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	60	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	61	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	62	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	63	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	64	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	65	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	66	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	67	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	68	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	69	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	70	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	71	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	72	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	73	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	74	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	75	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	76	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	77	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	78	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	79	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	80	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	81	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	82	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	83	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	84	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	85	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成

	86	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	87	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	88	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	89	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	90	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	91	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	92	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	93	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	94	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	95	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	96	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	97	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	98	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	99	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	100	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	101	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	102	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	103	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	104	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	105	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	106	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	107	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	108	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	109	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	110	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	111	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	112	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	113	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	114	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	115	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	116	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	117	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	118	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	119	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	120	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	121	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	122	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	123	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	124	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	125	メディカルラリー	傷病想定と現場活動

	126	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	127	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	128	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	129	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	130	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	131	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	132	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	133	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	134	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	135	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	136	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	137	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	138	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	139	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	140	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	141	外傷処置	外傷病院前救護実習
	142	外傷処置	外傷病院前救護実習
	143	外傷処置	外傷病院前救護実習
	144	外傷処置	外傷病院前救護実習
	145	外傷処置	外傷病院前救護実習
	146	外傷処置	外傷病院前救護実習
	147	外傷処置	外傷病院前救護実習
	148	外傷処置	外傷病院前救護実習
	149	外傷処置	外傷病院前救護実習
	150	外傷処置	外傷病院前救護実習
	151	外傷処置	外傷病院前救護実習
	152	外傷処置	外傷病院前救護実習
	153	外傷処置	外傷病院前救護実習
	154	外傷処置	外傷病院前救護実習
	155	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する
	156	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する
	157	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する
	158	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する

授業科目	救急処置 A	担当教員 実務経験	藤島　輝 有：□　　無：■	救急救命士として、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急医療概論 B	担当教員	田中　則之		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	0 時間
授業目的	救急救命士を取り巻く体勢・制度を理解し、救急救命士としての役割と責任を自覚する。法医学では、救急医学と法医学の関わりを理解し、救命士にとって必要な基礎を習得する。				
到達目標	①救急医療体制やメディカルコントロール体制及び災害医療体制について説明できる。　②救急活動のながれ、救急活動において必要な法令、コミュニケーション、安全管理と事故対応、感染対策、ストレス対策について説明できる。　③死の概念について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験配分 ・病院前医療　80% ・法医学　20% 定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	豊富な救急医療経験を元に救急医療のいろはを学んでいく。これから救急救命士を目指す過程で重要な科目なので、途中で効果測定を行い、目標到達度の評価を行う。①遅刻・中途退室の厳禁、②私語・携帯オフ、③居眠り、④提出物の期限厳守、⑤その他授業の進行に差し障りのある行為に対する諸注意。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	救急救命士の現状と未来（1）　（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士発展の歴史
	2	救急救命士の現状と未来（2）　（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士の活躍
	3	職業選択の自由について（菩提寺・阿部・荒谷）	職業としての救急救命士について
	4	人間性と自立について（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士に必要な人間性とは何か
	5	救急医療人としての活躍（菩提寺・阿部・荒谷）	世界の救急医療体制と日本の現状
	6	現場で活躍する救急救命士（菩提寺・阿部・荒谷）	消防機関で活躍する救急救命士
	7	成長発達（1）　（川島）	発達の区分
	8	成長発達（2）　（川島）	各発達の理解（グループワーク）
	9	成長発達（3）　（川島）	各発達の理解（グループワーク）
	10	成長発達（4）　（川島）	発表
	11	救急医療体制　（田中）	病院前医療、救急医療システム、救急医療体制の一元化
	12	病院前救護体制　（田中）	救命の連鎖、市民による一次救命処置
	13	病院前救護体制　（田中）	メディカルコントロール
	14	消防機関における救急活動の流れ　（田中）	119 番受信と通信体制、救急活動の記録
	15	救急救命士と傷病者の関係（田中）	接遇とコミュニケーション
	16	救急救命士に関連する法令（田中）	救急救命士法、医師法、保健師助産師看護師法、消防法、医療法
	17	救急救命士の養成と生涯教育　（田中）	救急救命士の養成課程と生涯教育、病院実習
	18	安全管理と事故対応　（田中）	安全管理、傷病者の事故、救急救命士等の事故

	19	感染対策　（田中）	感染予防策、感染事故と対応
	20	ストレスに対するマネージメント　（田中）	救急活動でのストレス
	21	法医学（1）　（安積）	法医学の分野（死体の検案および解剖、自然死と異常死）、死の概念
	22	法医学（2）　（安積）	死体現象（早期死体現象。後期死体現象、特殊な死体現象）
	23	法医学（3）　（安積）	窒息、損傷、凍死について

授業科目	救急医療概論 B	担当教員 実務経験	川島　清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	情報処理 A	担当教員	赤尾　みどり		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な情報リテラシーを身につけることを目的とし、コンピュータ操作法の基礎を学ぶ。また、文書処理ソフト、表計算ソフト、プレゼン作成ソフトなどを活用したビジネス情報の処理ができる。パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①文書処理ソフトを使ってレポートが作成できる。　②表計算ソフトを使って表や図が作成できる。　③プレゼンテーションソフトを使ってスライドが作成できる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じてプリントを配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	各試験の平均点 50%・提出物状況 50%を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	50	

履修上の留意事項	①授業は指定の教室で行なうので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン)、高校の必修教科「情報」で学ぶ Windows の基本操作（日本語入力、フォルダの新規作成、ファイルの移動・コピー、開く・閉じる等）は、既習であることを前提とする。③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	情報処理の基礎Ⅰ	インターネットの基礎（情報セキュア・著作権等)、iPad の設定と基本操作、Google アプリの設定
	2	情報処理の基礎Ⅱ	Google アプリの基礎（ドライブの設定、アプリの使い方、G メールの送受信）
	3	文書化の基本Ⅰ	効率的な文字入力と変換、記号の出し方、辞書の使い方
	4	文書化の基本Ⅱ	作表、画像・図形の利用
	5	文書化の基本Ⅲ	練習問題
	6	表計算ソフトの活用Ⅰ	データ入力とワークシートの編集
	7	表計算ソフトの活用Ⅱ	四則演算と関数の基礎、作表と編集（1）
	8	表計算ソフトの活用Ⅲ	四則演算と関数の基礎、作表と編集（2）
	9	表計算ソフトの活用Ⅳ	グラフ表現の要点とグラフ作成
	10	表計算ソフトの活用Ⅴ	練習問題
	11	プレゼンテーションソフトの活用Ⅰ	スライド編集、文字装飾と図形の活用
	12	プレゼンテーションソフトの活用Ⅱ	特殊効果（グラフ、図形の活用)、表・画像の挿入
	13	プレゼンテーションソフトの活用Ⅲ	資料作成とプレゼンの作成（1）
	14	プレゼンテーションソフトの活用Ⅳ	資料作成とプレゼンの作成（2）
	15	プレゼンテーションソフトの活用Ⅴ	総合演習、プレゼンテーション

授業科目	情報処理 A	担当教員 実務経験	赤尾みどり 有：■　　無：□	情報処理系企業にてシステム開発に従事しており、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	教養ＩB	担当教員	阿部　幸雄		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	公務員試験の一般知能分野へ対応すべく、数学の基礎的な知識や文章読解をベースに、解答を導くための論理的思考方法を学ぶ。				
到達目標	各単元の基礎問題が各自で解答できるようになる。				
テキスト・参考図書等	・絶対合格シリーズ：数的推理・資料解釈 ・絶対合格シリーズ：判断推理・空間把握				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験・小テスト・提出物等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義および問題演習中心の授業となるが、受身にならずに自ら積極的に解答すること。授業だけではなく家庭でも反復練習をすることにより実力が更にアップする。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	公務員試験概要　（阿部）	救急救命士への道のりについて・試験問題解説
	2	数的推理　（阿部）	濃度①
	3	数的推理　（阿部）	濃度②
	4	数的推理　（阿部）	年齢①
	5	数的推理　（阿部）	年齢②
	6	判断推理　（工藤）	対応関係①
	7	数的推理　（阿部）	年齢③
	8	判断推理　（工藤）	対応関係②
	9	数的推理　（阿部）	仕事算①
	10	判断推理　（工藤）	対応関係③
	11	数的推理　（阿部）	仕事算②
	12	判断推理　（工藤）	試合・勝敗①
	13	数的推理　（阿部）	旅人算①
	14	判断推理　（工藤）	試合・勝敗②
	15	数的推理　（阿部）	旅人算②
	16	判断推理　（工藤）	論理①
	17	数的推理　（阿部）	通過算
	18	判断推理　（工藤）	論理②
	19	数的推理　（阿部）	流水算
	20	判断推理　（工藤）	集合・人数①
	21	数的推理　（阿部）	一次方程式
	22	判断推理　（工藤）	集合・人数②
	23	数的推理　（阿部）	連立方程式

	24	判断推理　（工藤）	うそつき①
	25	数的推理　（阿部）	不等式
	26	判断推理　（工藤）	うそつき②
	27	数的推理　（阿部）	売買損益
	28	判断推理　（工藤）	暗号
	29	数的推理　（阿部）	まとめ
	30	判断推理　（工藤）	まとめ

授業科目	教養ＩB	担当教員 実務経験	工藤 哲也 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	医療機器管理 B	担当教員	三上　剛人		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	救急患者を取り巻く医療機器の必要性、重要性を理解する。				
到達目標	関連する医療機器の目的と取り扱い方法を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	80%	ノート持ち込み式の筆記試験　80% 作成ノート評価　20% ※直筆のノートのみ持ち込み可能です。コピーの貼り付けなどは認めていません。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	20%	
その他	0	

履修上の留意事項	医療機器操作の基本から、種々の機器に関する取り扱い、原理を学んでいきます。医療業界にはたくさんの医療機器があります。機械を使うことは、とても便利で正確に医療を提供する方法のひとつですが、使用方法をひとつ間違えると、死にいたる危険なものもたくさんあります。しっかり学んでいきましょう。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	医療機器管理概論　（臨床工学士))	医療用電源と一般電源の違いや救急医療の医療機器に必要な知識全般を開設します。
2	パルスオキシメーター・除細動・人工呼吸器　1	全 3 回を使って、上記の調べ学習、発表を行います。
3	パルスオキシメーター・除細動・人工呼吸器　2	グループ演習
4	パルスオキシメーター・除細動・人工呼吸器　3	グループ演習・プレゼンテーション
5	心電図・除細動	12 誘導心電図、モニター心電図、除細動について学びます。
6	心電図・除細動	12 誘導心電図、モニター心電図、除細動について学びます。
7	輸液ポンプ・シリンジポンプ・血糖測定器	原理、構造、適応、注意点等、演習を交えます。
8	在宅医療で使用する医療機器　（三上）	病院と在宅の違い。在宅機器操作時の注意点など
9	超音波検査の理解	超音波エコーについて知識を獲得します。
10	まとめ　（三上）	これまでの講義のまとめと総合問題演習
11		

授業科目	医療機器管理 B	担当教員 実務経験	本吉竜浩 有：■　　無：□	臨床工学技士として医療機器の安全管理業務に従事しており、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	外傷総論 A	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	外傷病院前救護についての概要、観察、処置について学ぶ。				
到達目標	外傷病院前救護の概念、知識、救急活動、外傷病態について説明ができる。　　災害時の現場活動を説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義形式とする。前半と後半で学習到達度確認のため、まとめを行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	外傷（損傷）の定義	外傷の疫学
	2	外傷（損傷）の分類	鈍的外傷・鋭的外傷・創傷の分類
	3	受傷機転からみた外傷の特徴	傷病者の状況と受傷機転の評価
	4	外傷による障害の起こり方	気道閉塞・呼吸障害・循環障害・中枢神経障害
	5	外傷による死因	外傷死による 3 つのピークと死因
	6	現場トリアージ	重症度・緊急度の判断・現場トリアージ
	7	前半のまとめ	理解度確認
	8	頭部外傷・顔面・頸椎（頸髄）損傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
	9	胸部外傷・腹部外傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
	10	骨盤骨折・四肢外傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
	11	特殊病態	小児外傷・高齢者外傷・妊婦外傷
	12	災害時トリアージ（1）	トリアージ区分・トリアージ方法（トリアージ）
	13	災害時トリアージ（2）	トリアージ区分・トリアージ方法（トリアージ）
	14	医療機関との連携	ドクターカー・ドクターヘリ・DMAT
	15	後半のまとめ	理解度確認

授業科目	外傷総論 A	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	表現基礎 B	担当教員	湊　久恵		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公務員試験の作文や実習の日誌、レポートなどを体裁良く書ける。				
到達目標	漢検 3 級以上を取得する。公務員試験に合格する国語力をつける。				
テキスト・参考図書等	・漢検　漢字学習トレーニング 3/準 2/2 級　改訂第二版　（日本漢字能力検定協会　編） ・オリジナルプリント				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)
試験	60
レポート	0
小テスト	20
提出物	10
その他	10

評価基準

定期試験、小テスト、提出物の評価基準　（100 点満点に換算）
評価基準 A（十分に満足）　80 点以上
評価基準 B（おおむね満足）　60～79 点
評価基準 C（努力を要する）　59 点以下
定期試験・小テスト・提出物等を基に総合的に評価する。

履修上の留意事項

・手書きでの提出物は楷書で丁寧に書き、鉛筆は濃いもの（B か HB）を使用すること。　・初心を忘れず、私語、携帯の使用、居眠りなどはしないように。　・課題の未提出及び提出に値しない内容のものは、再提出とする。　・漢字検定は必ず 3 級を取得すること。3 級既得者は、1 ランク上の級を取得すること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	作文 1	現在の自分の作文力を知る
2	作文 2	作文のルール
3	作文 3	高校の恩師への手紙、意見を述べる
4	作文 4	封筒の書き方など手紙のルール
5	作文 5	作文のルールにより実作
6	作文 6	読む人を意識する
7	作文 7	わかりやすい文章とは 1
8	作文 8	わかりやすい文章とは 2
9	作文 9	指示語
10	作文 10	内容のまとまり
11	作文 11	選ぶべき題材
12	作文 12	文章の構成
13	作文 13	本番のように書いてみる
14	レポートの書き方	実習日誌やレポートの意義
15	面接カード、エントリーシートの書き方	書き方一つで合否に影響

授業科目	表現基礎 B	担当教員 実務経験	湊久恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	形態機能学Ⅰ(解剖、身体機能)B	担当教員	松井　公汰		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	各器官の構造と機能を学ぶことにより、その後に学ぶ救急医学の基礎を作ること。				
到達目標	正常な人体の肉眼的構造を学び、その機能について理解する。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・生体のしくみ　第 3 版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	30	

履修上の留意事項	人体臓器の位置構造をしっかりと学ぶ。教科書を中心に、スライド、プリント、模型などを用いて講義を行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	解剖学序論	講義オリエンテーション
	2	身体を構成する要素	細胞　組織　器官　体液
	3	体表からみる人体の構造	人体の位置・方向、体表からみた構造・名称、身体の各部位
	4	神経系	神経系の構成、中枢神経系　末梢神経　自律神経　脳神経
	5	感覚系	視覚器、平衡聴覚器、味覚器、臭覚器
	6	呼吸系	気道　胸郭　肺　ガス交換　呼吸の働き
	7	循環系	循環系の構成　心臓　脈管　循環の制御
	8	消化系	口腔・咽頭　消化管　　肝臓・胆道係　膵臓　腹膜・腹腔
	9	泌尿系	腎臓、尿管、膀胱、尿道、
	10	中間確認	人体の構造～泌尿系（問題演習）
	11	生殖系	男性生殖器　女性生殖器
	12	内分泌系	内分泌器官　　ホルモン
	13	血液・免疫系	血液　血球　血漿　骨髄　脾臓　止血と凝固　免疫
	14	筋・骨格系	四肢の主な骨格筋　骨・関節　靭帯・腱　脊柱の構造
	15	皮膚系	皮膚の構造　皮膚の役割
	16	生命維持	栄養素と代謝　恒常性
	17	講義のまとめ	練習問題
	18	解剖学総合演習	人体の構造と機能
	19	解剖学総合演習	神経系
	20	中間確認	生殖系～生命維持（問題演習）
	21	解剖学総合演習	呼吸系
	22	解剖学総合演習	循環系
	23	解剖学総合演習	消化系

	24	解剖学総合演習	泌尿系
	25	解剖学総合演習	内分泌系
	26	解剖学総合演習	血液・免疫系
	27	解剖学総合演習	国試頻出問題
	28	解剖学総合演習	練習問題
	29	解剖学総合演習	練習問題
	30	総合確認	問題演習

授業科目	形態機能学Ⅰ(解剖、身体機能)B	担当教員 実務経験	松井　公汰 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急病態生理学ＩA	担当教員	田中　則之		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	疾患にかかると、さまざまな自覚症状、第三者によって認められる徴候がみられる。これらは疾患の根底に存在する、生体の機能が病的に変化した状態を反映する。ここでは、患者さんから現れる症状と徴候を学んでいく。よく遭遇する重要な症状・徴候の理解と対処の方法を習得する。				
到達目標	症状、所見から病態鑑別を行い、必要な救急処置ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	90	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	10	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急疾患に関係の深い病態を中心に行う講義であり、他の病態にも関連性の高い内容となっている。今後の授業の理解度を上げるためにも、内容を理解するため、毎回しっかり予習・復習をすること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	呼吸不全①	原因と病態生理、症候
	2	呼吸不全②	原因と病態生理、症候
	3	呼吸不全③	原因と病態生理、症候
	4	心不全①	原因と病態生理、症候
	5	心不全②	原因と病態生理、症候
	6	心不全③	原因と病態生理、症候
	7	ショック①	原因と病態生理、症候
	8	ショック②	原因と病態生理、症候
	9	ショック③	原因と病態生理、症候
	10	重症脳障害①	原因と病態生理、症候
	11	重症脳障害②	原因と病態生理、症候
	12	重症脳障害③	原因と病態生理、症候
	13	心肺停止①	原因と病態生理、症候
	14	心肺停止②	原因と病態生理、症候
	15	心肺停止③	原因と病態生理、症候

授業科目	救急病態生理学ＩA	担当教員 実務経験	田中則之 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	教養ＩA	担当教員	阿部　幸雄		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	30 回	時間数	60 時間
授業目的	公務員試験の一般知能分野へ対応すべく、数学の基礎的な知識や文章読解をベースに、解答を導くための論理的思考方法を学ぶ。				
到達目標	各単元の基礎問題が各自で解答できるようになる。				
テキスト・参考図書等	・絶対合格シリーズ：数的推理・資料解釈 ・絶対合格シリーズ：判断推理・空間把握				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験・小テスト・提出物等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	10	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義および問題演習中心の授業となるが、受身にならずに自ら積極的に解答すること。授業だけではなく家庭でも反復練習をすることにより実力が更にアップする。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	公務員試験概要　（阿部）	救急救命士への道のりについて・試験問題解説
	2	数的推理　（阿部）	濃度①
	3	数的推理　（阿部）	濃度②
	4	数的推理　（阿部）	年齢①
	5	数的推理　（阿部）	年齢②
	6	判断推理　（工藤）	対応関係①
	7	数的推理　（阿部）	年齢③
	8	判断推理　（工藤）	対応関係②
	9	数的推理　（阿部）	仕事算①
	10	判断推理　（工藤）	対応関係③
	11	数的推理　（阿部）	仕事算②
	12	判断推理　（工藤）	試合・勝敗①
	13	数的推理　（阿部）	旅人算①
	14	判断推理　（工藤）	試合・勝敗②
	15	数的推理　（阿部）	旅人算②
	16	判断推理　（工藤）	論理①
	17	数的推理　（阿部）	通過算
	18	判断推理　（阿部）	論理②
	19	数的推理　（阿部）	流水算
	20	判断推理　（阿部）	集合・人数①
	21	数的推理　（阿部）	一次方程式
	22	判断推理　（工藤）	集合・人数②
	23	数的推理　（阿部）	連立方程式

	24	判断推理　（工藤）	うそつき①
	25	数的推理　（阿部）	不等式
	26	判断推理　（工藤）	うそつき②
	27	数的推理　（阿部）	売買損益
	28	判断推理　（工藤）	暗号
	29	数的推理　（阿部）	まとめ
	30	判断推理　（工藤）	まとめ

授業科目	教養ＩA	担当教員 実務経験	工藤 哲也 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心肺停止ＩB	担当教員	三上　剛人		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	8 回	時間数	16 時間
授業目的	心肺停止の病態に関する基礎知識を学ぶ。				
到達目標	①日本における心肺停止の現状を知る ②心肺蘇生に必要な用語を覚える ③心肺蘇生の手順を知る ④医療者向け BLS を手順通りに実施できる				
テキスト・参考図書等	・救急蘇生法の指針 2020（医療従事者用） ・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	筆記試験 80% 科目試験・レポート 20%
	レポート	20	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	心肺停止の現状を調べ学習します。 心肺停止を医学的根拠を基に解説していきます。 BLS アルゴリズムに則った演習で基本的な実技を習得します。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	原因と病態	心停止、呼吸停止後の病態
	2	心停止の易学	時間的要因、蘇生の可能性
	3	心停止の心電図	心静止・VF・PEA、重症不整脈
	4	心停止の判断	呼吸観察、循環観察、DNAR
	5	蘇生	根拠と方法
	6	BLS	BLS の手順解説
	7	BLS	BLS 実技指導
	8	BLS	BLS 実技指導

授業科目	心肺停止ＩＢ	担当教員 実務経験	三上剛人 有：■　　無：□	救命救急センターにおいて看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	基礎演習 A	担当教員	荒谷　和興		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	45 回	時間数	90 時間
授業目的	救急救命士として必要な規律や集団行動を体験し習得する。各種搬送法・創傷処置等の基本的な処置を習得する。				
到達目標	基本的ロープ結索や救急処置（止血・被覆・固定・体位管理・保温・搬送）を適切に実施できる。 山岳研修やライフセービングといった現場活動実習を通じてチームとしての協調ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル ・その他				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・項目ごとに行う効果測定等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	各種実習での体験を通じて各種基本を習得する。各個の動作一隊として一団体行動と、規律ある行動をすること。清潔感（服装・頭髪等）、規律ある行動に十分配意すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション（1）	はじめに（基礎演習全般の説明・頭髪、爪、服装について）
	2	オリエンテーション（2）	号令要領、番号のかけ方（人員確認）、整列の仕方（基本の姿勢、整列休めの姿勢）
	3	訓練礼式（1）	小隊編成（横隊の集合要領、横隊の整頓、横隊の右（左）向き、解散）
	4	訓練礼式（2）	敬礼動作（挙手注目の敬礼、最敬礼、15 度の敬礼、かしら中（右、左)）
	5	訓練礼式（3）	右（左）向け、半ば右(左）向け、後ろ向き（まわれ右）
	6	訓練礼式（4）	かけ足行進・停止、職員室入退室要領
	7	訓練礼式（5）	通常点検要領
	8	訓練礼式（6）	通常点検要領
	9	ロープ結索（1）	基本結索（本結び、巻き結び、ひとえ結び、もやい結び、二重もやい結び）
	10	ロープ結索（2）	基本結索（本結び、巻き結び、ひとえ結び、もやい結び、二重もやい結び）
	11	ロープ結索（3）	器具結索（ボンベ、かけや、他）
	12	ロープ結索（4）	器具結索（ボンベ、かけや、他）
	13	確認試験	訓練礼式・ロープ結索
	14	確認試験	訓練礼式・ロープ結索
	15	創傷の処置（1）	三角巾を使用した固定・被覆・止血処置
	16	創傷の処置（2）	骨折の処置（副木固定)、バキュームスプリントによる固定
	17	各種搬送法（1）	メインストレッチャー、サブストレッチャー
	18	各種搬送法（2）	スクープストレッチャー、布担架
	19	傷病者の管理（1）	体位の管理（仰臥位、坐位、腹臥位、側臥位、ショック体位）
	20	傷病者の管理（2）	頸椎カラー固定、全身固定

	21	各種搬送法（1）	徒手搬送（支持搬送・抱き上げ搬送）
	22	各種搬送法（2）	応急担架（毛布・衣服・棒）、傾斜のある場所での搬送
	23	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
	24	確認試験	各種創傷の処置、搬送法、体位管理の確認
	25	救急隊現場活動（1）	傷病者接触までの確認事項（情報共有、環境観察、傷病者の確認）
	26	救急隊現場活動（2）	問診と聴取（OPQRST、SAMPLER を使用した問診）
	27	救急隊現場活動（3）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	28	救急隊現場活動（4）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	29	救急隊現場活動（5）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	30	救急隊現場活動（6）	バイタルサインの測定（初期評価、資機材を用いたバイタルサイン測定）
	31	山岳研修（1）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	32	山岳研修（2）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	33	山岳研修（3）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	34	山岳研修（4）	藻岩山登山を通じて、止血・被覆・固定・搬送までをトータルに実践
	35	救急隊現場活動（7）	気道確保（口腔内清拭、吸引、異物除去）、用手気道確保
	36	救急隊現場活動（8）	エアウエイ、酸素投与、器具による人工呼吸、補助呼吸
	37	救急隊現場活動（9）	胸骨圧迫（成人、小児、乳児、新生児）
	38	救急隊現場活動（10）	胸骨圧迫（成人）
	39	救急隊現場活動（11）	BVM による人工呼吸
	40	救急隊現場活動（12）	BVM による人工呼吸
	41	救急隊現場活動（13）	胸骨圧迫と人工呼吸
	42	救急隊現場活動（14）	胸骨圧迫と人工呼吸
	43	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
	44	確認試験	胸骨圧迫と人工呼吸
	45	ライフセービング（1）	海での救助
	46	ライフセービング（2）	海での救助

授業科目	基礎演習 A	担当教員 実務経験	非常勤講師 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	理科総合 A	担当教員	輕部　諭		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	医療の基礎となる生理学・生物学を理解する。身体の概要・細胞・遺伝・生体防御の基本的な事柄を理解する。				
到達目標	生理・生化学で使う化学式、化学反応を活用できる。細胞、人体の基本的機能を説明できる。				
テキスト・参考図書等	・サイエンスビュー生物総合資料　4 訂版				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	60	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	20	
提出物	0	
その他	20	

履修上の留意事項

物理・化学、生理学・生物学の基礎的・基本的事項を板書やプリント等を使いながら、学習をすすめていく。学習に関連した演習問題を授業の中で扱い、小テストを実施。これから先、生理学・生物学をしっかり学ぶと、理解度が断然違ってくる。医療基礎としてしっかり身に付けること。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	化学	原子構造、原子量、分子量、物質量、溶液の濃度
2	化学	化学結合・化学反応、酸・塩基、酸化還元、水素イオン指数，加水分解
3	生物学	糖、蛋白質、脂肪、ATP
4	生物学	細胞・DNA・タンパク質
5	生物学	神経系
6	生物学	循環系、肝臓・腎臓
7	生物学	呼吸器、消化器
8	生物学	ホルモンによる調整、内部環境と恒常性
9	生物学	生体防御
10	物理学（力と仕事）	物体の変形・剪断、位置エネルギー・運動エネルギー、高エネルギー事故

授業科目	理科総合 A	担当教員 実務経験	輕部諭 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	応急処置ＩＢ	担当教員	菩提寺　浩		
対象年次・学期	通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	68 回	時間数	135 時間
授業目的	傷病者を医師に引き継ぐまでの間に、傷病者の症状や病態に最も適切な対応を行うため、基礎技術の習得・各種資器材の特性を理解し状況に合った応急処置技術の習得を行う。				
到達目標	資器材の特性を理解し、正しい使用方法で適切な処置ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・効果測定等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	使用資器材についての機能、取扱、禁忌事項などの説明後、実技を行っていく。実習開始前に各テキストの該当ページで予習をすること。授業中、不明な点や疑問点は積極的に質問し理解を深めること。止むを得ず欠席した場合のフォローについては自分から担当教員等に働きかけること。少人数制の実習形態に関しては一定のルールを設けているので、各自実習に関する掲示物には必ず目を通すこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	リバーレスキュー①	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	2	リバーレスキュー②	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	3	リバーレスキュー③	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	4	リバーレスキュー④	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	5	リバーレスキュー⑤	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	6	リバーレスキュー⑥	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	7	リバーレスキュー⑦	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	8	リバーレスキュー⑧	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	9	オリエンテーション	実習開始についてのオリエンテーション
	10	救急現場活動の基本	救急要請から医療機関収容までの救急活動の流れ
	11	救急救命士が行う処置①	除細動（半自動、全自動、自動式心マッサージ器）使用方法
	12	救急救命士が行う処置②	除細動（半自動、全自動、自動式心マッサージ器）使用方法
	13	救急救命士が行う処置③	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	14	救急救命士が行う処置④	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	15	救急救命士が行う処置⑤	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	16	救急救命士が行う処置⑥	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	17	救急救命士が行う処置⑦	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	18	救急救命士が行う処置⑧	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	19	確認試験	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	20	確認試験	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	21	救急救命士が行う処置⑨	異物除去方法（指拭法、背部巧打法、胸腹部突き上げ法等）

	22	救急救命士が行う処置⑩	異物除去方法（喉頭展開、マギール鉗子、喉頭鏡を使用した異物除去）
	23	救急救命士が行う処置⑪	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	24	救急救命士が行う処置⑫	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	25	救急救命士が行う処置⑬	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	26	救急救命士が行う処置⑭	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	27	救急救命士が行う処置⑮	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	28	救急救命士が行う処置⑯	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	29	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	30	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	31	救急救命士が行う処置⑰	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	32	救急救命士が行う処置⑱	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	33	救急救命士が行う処置⑲	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	34	救急救命士が行う処置⑳	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	35	救急救命士が行う処置㉑	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	36	救急救命士が行う処置㉒	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	37	救急救命士が行う処置㉓	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	38	救急救命士が行う処置㉔	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	39	救急救命士が行う処置㉕	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	40	救急救命士が行う処置㉖	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	41	救急救命士が行う処置㉗	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	42	救急救命士が行う処置㉘	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	43	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	44	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	45	救急救命士が行う処置㉙	気管挿管（個人訓練）
	46	救急救命士が行う処置㉚	気管挿管（個人訓練）
	47	救急救命士が行う処置㉛	気管挿管（個人訓練）
	48	救急救命士が行う処置㉜	気管挿管（個人訓練）
	49	救急救命士が行う処置㉝	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	50	救急救命士が行う処置㉞	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	51	救急救命士が行う処置㉟	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	52	救急救命士が行う処置㊱	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	53	救急救命士が行う処置㊲	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	54	救急救命士が行う処置㊳	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	55	救急救命士が行う処置㊲	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	56	救急救命士が行う処置㊳	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	57	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	58	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	59	総合シミュレーション①	想定訓練
	60	総合シミュレーション②	想定訓練

	61	総合シミュレーション③	想定訓練
	62	総合シミュレーション④	想定訓練
	63	総合シミュレーション⑤	想定訓練
	64	総合シミュレーション⑥	想定訓練
	65	消防署見学①	消防業務の理解と体験
	66	消防署見学②	消防業務の理解と体験
	67	消火栓除雪①	消防業務の一つである消火栓除雪を実施
	68	消火栓除雪②	消防業務の一つである消火栓除雪を実施

授業科目	応急処置ＩＢ	担当教員 実務経験	池田悠輔 有：□　　無：■	救急救命士として、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	生命と健康 A	担当教員	本間　宗一郎		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	・生命と健康をめぐる現代社会の諸問題を倫理的視点から考える方法を学ぶ。				
到達目標	・倫理学・生命倫理学の基本的な用語・考え方を理解し、その理解に基づいて生命医療の諸問題に対する自身の考えを述べられるようになる。				
テキスト・参考図書等	・スライド資料を用意する ・参考図書：改訂版　入門・医療倫理（赤林朗編、勁草書房、2017 年)、はじめて出会う生命倫理（玉井・大谷編、有斐閣、2011 年）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	0	レポート・提出物等を基に総合的に評価する。
	レポート	70	
	小テスト	0	
	提出物	30	
	その他	0	

履修上の留意事項	適宜参考文献を紹介するので可能な範囲で目を通して問題の背景を理解することが望ましい。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	イントロダクション	講義内容の概観、進め方、評価基準、生命倫理学についての説明など
	2	倫理学概論	倫理学という学問がどのようなものかについての説明
	3	規範倫理学①　帰結主義	幸福・不幸に代表される帰結を重要視する帰結主義についての検討
	4	規範倫理学②　義務論	帰結に尽きない要素を重要視する義務論についての検討
	5	規範倫理学③　徳倫理学	有徳な者の行為を範例とする徳倫理学についての検討

	6	生命倫理①　健康・病気・障害	医療が向き合う健康・病気・障害とは何かについての吟味
	7	生命倫理②　インフォームド・コンセントと自律	インフォームド・コンセントの意義と自律にまつわる諸問題の検討
	8	生命倫理③　生殖医療	生命の誕生にまつわる自己決定と諸問題の検討
	9	生命倫理④　終末期医療と安楽死・尊厳死	死の間際における自己決定と諸問題の検討
	10	まとめ	これまでの内容の復習と補足、期末レポートの説明

授業科目	生命と健康 A	担当教員 実務経験	本間宗一郎 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心理学 A	担当教員	新井田　光希		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	人間の判断や行動をとらえ直し、ヒューマン・エラーを事故に直結させないための様々な方策を、認知心理学や社会心理学観点から考えていく。 個々の患者さんに合った心理的援助の方法を臨床心理学の観点から考えていく。				
到達目標	ヒューマン・エラーを事故に直結させないための様々な方策を予測できる。				
テキスト・参考図書等	・電子配布				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	授業は講義形式で行う。各回終了時に小テストを実施。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	認知心理学	感覚・知覚
	2	認知心理学	記憶
	3	認知心理学	思考
	4	学習心理学	古典的条件づけ・オペラント条件づけ・様々な学習理論
	5	人格心理学	人格・性格の理論
	6	社会心理学	対人知覚
	7	社会心理学	社会的影響
	8	社会心理学	集団意思決定
	9	臨床心理学・発達心理学	ストレス理論・発達理論
	10	全体のまとめ	講義内容の総括

授業科目	心理学 A	担当教員 実務経験	新井田光希 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急医療概論 A	担当教員	田中　則之		
対象年次・学期	1 年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	23 回	時間数	0 時間
授業目的	救急救命士を取り巻く体勢・制度を理解し、救急救命士としての役割と責任を自覚する。法医学では、救急医学と法医学の関わりを理解し、救命士にとって必要な基礎を習得する。				
到達目標	①救急医療体制やメディカルコントロール体制及び災害医療体制について説明できる。　②救急活動のながれ、救急活動において必要な法令、コミュニケーション、安全管理と事故対応、感染対策、ストレス対策について説明できる。　③死の概念について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験配分 ・病院前医療　80% ・法医学　20% 定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	豊富な救急医療経験を元に救急医療のいろはを学んでいく。これから救急救命士を目指す過程で重要な科目なので、途中で効果測定を行い、目標到達度の評価を行う。①遅刻・中途退室の厳禁、②私語・携帯オフ、③居眠り、④提出物の期限厳守、⑤その他授業の進行に差し障りのある行為に対する諸注意。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	救急救命士の現状と未来（1）　（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士発展の歴史
	2	救急救命士の現状と未来（2）　（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士の活躍
	3	職業選択の自由について（菩提寺・阿部・荒谷）	職業としての救急救命士について
	4	人間性と自立について（菩提寺・阿部・荒谷）	救急救命士に必要な人間性とは何か
	5	救急医療人としての活躍（菩提寺・阿部・荒谷）	世界の救急医療体制と日本の現状
	6	現場で活躍する救急救命士（菩提寺・阿部・荒谷）	消防機関で活躍する救急救命士
	7	成長発達（1）　（川島）	発達の区分
	8	成長発達（2）　（川島）	各発達の理解（グループワーク）
	9	成長発達（3）　（川島）	各発達の理解（グループワーク）
	10	成長発達（4）　（川島）	発表
	11	救急医療体制　（田中）	病院前医療、救急医療システム、救急医療体制の一元化
	12	病院前救護体制　（田中）	救命の連鎖、市民による一次救命処置
	13	病院前救護体制　（田中）	メディカルコントロール
	14	消防機関における救急活動の流れ　（田中）	119 番受信と通信体制、救急活動の記録
	15	救急救命士と傷病者の関係（田中）	接遇とコミュニケーション
	16	救急救命士に関連する法令（田中）	救急救命士法、医師法、保健師助産師看護師法、消防法、医療法
	17	救急救命士の養成と生涯教育　（田中）	救急救命士の養成課程と生涯教育、病院実習
	18	安全管理と事故対応　（田中）	安全管理、傷病者の事故、救急救命士等の事故

	19	感染対策　（田中）	感染予防策、感染事故と対応
	20	ストレスに対するマネージメント　（田中）	救急活動でのストレス
	21	法医学（1）　（安積）	法医学の分野（死体の検案および解剖、自然死と異常死）、死の概念
	22	法医学（2）　（安積）	死体現象（早期死体現象。後期死体現象、特殊な死体現象）
	23	法医学（3）　（安積）	窒息、損傷、凍死について

授業科目	救急医療概論 A	担当教員 実務経験	川島　清志 有：■　　無：□	看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う。
対象年次・学期	1 年・通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	心理学 B	担当教員	新井田　光希		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	人間の判断や行動をとらえ直し、ヒューマン・エラーを事故に直結させないための様々な方策を、認知心理学や社会心理学観点から考えていく。 個々の患者さんに合った心理的援助の方法を臨床心理学の観点から考えていく。				
到達目標	ヒューマン・エラーを事故に直結させないための様々な方策を予測できる。				
テキスト・参考図書等	・電子配布				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	授業は講義形式で行う。各回終了時に小テストを実施。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	認知心理学	感覚・知覚
	2	認知心理学	記憶
	3	認知心理学	思考
	4	学習心理学	古典的条件づけ・オペラント条件づけ・様々な学習理論
	5	人格心理学	人格・性格の理論
	6	社会心理学	対人知覚
	7	社会心理学	社会的影響
	8	社会心理学	集団意思決定
	9	臨床心理学・発達心理学	ストレス理論・発達理論
	10	全体のまとめ	講義内容の総括

授業科目	心理学 B	担当教員 実務経験	新井田光希 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	情報処理 B	担当教員	赤尾　みどり		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な情報リテラシーを身につけることを目的とし、コンピュータ操作法の基礎を学ぶ。また、文書処理ソフト、表計算ソフト、プレゼン作成ソフトなどを活用したビジネス情報の処理ができる。パソコンを有効活用するための知識と操作法を習得する。				
到達目標	①文書処理ソフトを使ってレポートが作成できる。　②表計算ソフトを使って表や図が作成できる。　③プレゼンテーションソフトを使ってスライドが作成できる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じてプリントを配付				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	50	各試験の平均点 50%・提出物状況 50%を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	50	

履修上の留意事項	①授業は指定の教室で行なうので時間までに着席していること。②説明と実習（実習がメイン)、高校の必修教科「情報」で学ぶ Windows の基本操作（日本語入力、フォルダの新規作成、ファイルの移動・コピー、開く・閉じる等）は、既習であることを前提とする。③積み重ねの演習が多いので休まずに出席すること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	情報処理の基礎Ⅰ	インターネットの基礎（情報セキュア・著作権等)、iPad の設定と基本操作、Google アプリの設定
	2	情報処理の基礎Ⅱ	Google アプリの基礎（ドライブの設定、アプリの使い方、G メールの送受信）
	3	文書化の基本Ⅰ	効率的な文字入力と変換、記号の出し方、辞書の使い方
	4	文書化の基本Ⅱ	作表、画像・図形の利用
	5	文書化の基本Ⅲ	練習問題
	6	表計算ソフトの活用Ⅰ	データ入力とワークシートの編集
	7	表計算ソフトの活用Ⅱ	四則演算と関数の基礎、作表と編集（1）
	8	表計算ソフトの活用Ⅲ	四則演算と関数の基礎、作表と編集（2）
	9	表計算ソフトの活用Ⅳ	グラフ表現の要点とグラフ作成
	10	表計算ソフトの活用Ⅴ	練習問題
	11	プレゼンテーションソフトの活用Ⅰ	スライド編集、文字装飾と図形の活用
	12	プレゼンテーションソフトの活用Ⅱ	特殊効果（グラフ、図形の活用)、表・画像の挿入
	13	プレゼンテーションソフトの活用Ⅲ	資料作成とプレゼンの作成（1）
	14	プレゼンテーションソフトの活用Ⅳ	資料作成とプレゼンの作成（2）
	15	プレゼンテーションソフトの活用Ⅴ	総合演習、プレゼンテーション

授業科目	情報処理 B	担当教員 実務経験	赤尾みどり 有：■　　無：□	情報処理系企業にてシステム開発に従事しており、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	応急処置ＩA	担当教員	菩提寺　浩		
対象年次・学期	通年	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	68 回	時間数	135 時間
授業目的	傷病者を医師に引き継ぐまでの間に、傷病者の症状や病態に最も適切な対応を行うため、基礎技術の習得・各種資器材の特性を理解し状況に合った応急処置技術の習得を行う。				
到達目標	資器材の特性を理解し、正しい使用方法で適切な処置ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・救急資器材管理マニュアル ・救急技術マニュアル				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・効果測定等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	使用資器材についての機能、取扱、禁忌事項などの説明後、実技を行っていく。実習開始前に各テキストの該当ページで予習をすること。授業中、不明な点や疑問点は積極的に質問し理解を深めること。止むを得ず欠席した場合のフォローについては自分から担当教員等に働きかけること。少人数制の実習形態に関しては一定のルールを設けているので、各自実習に関する掲示物には必ず目を通すこと。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	リバーレスキュー①	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	2	リバーレスキュー②	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	3	リバーレスキュー③	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	4	リバーレスキュー④	ニセコ尻別川において、陸上からのレスキュー体験
	5	リバーレスキュー⑤	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	6	リバーレスキュー⑥	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	7	リバーレスキュー⑦	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	8	リバーレスキュー⑧	ニセコ尻別川において、ボートを使用したレスキュー体験
	9	オリエンテーション	実習開始についてのオリエンテーション
	10	救急現場活動の基本	救急要請から医療機関収容までの救急活動の流れ
	11	救急救命士が行う処置①	除細動（半自動、全自動、自動式心マッサージ器）使用方法
	12	救急救命士が行う処置②	除細動（半自動、全自動、自動式心マッサージ器）使用方法
	13	救急救命士が行う処置③	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	14	救急救命士が行う処置④	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	15	救急救命士が行う処置⑤	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	16	救急救命士が行う処置⑥	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	17	救急救命士が行う処置⑦	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	18	救急救命士が行う処置⑧	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	19	確認試験	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	20	確認試験	半自動式除細動器を用いた心肺蘇生法（BLS）
	21	救急救命士が行う処置⑨	異物除去方法（指拭法、背部巧打法、胸腹部突き上げ法等）

	22	救急救命士が行う処置⑩	異物除去方法（喉頭展開、マギール鉗子、喉頭鏡を使用した異物除去）
	23	救急救命士が行う処置⑪	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	24	救急救命士が行う処置⑫	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	25	救急救命士が行う処置⑬	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	26	救急救命士が行う処置⑭	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	27	救急救命士が行う処置⑮	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	28	救急救命士が行う処置⑯	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	29	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	30	確認試験	異物除去を伴う心肺蘇生法（隊活動）
	31	救急救命士が行う処置⑰	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	32	救急救命士が行う処置⑱	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	33	救急救命士が行う処置⑲	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	34	救急救命士が行う処置⑳	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	35	救急救命士が行う処置㉑	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	36	救急救命士が行う処置㉒	声門上気道デバイスを用いた気道確保（個人訓練）
	37	救急救命士が行う処置㉓	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	38	救急救命士が行う処置㉔	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	39	救急救命士が行う処置㉕	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	40	救急救命士が行う処置㉖	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	41	救急救命士が行う処置㉗	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	42	救急救命士が行う処置㉘	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	43	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	44	確認試験	声門上気道デバイスを用いた気道確保と心肺蘇生法（隊活動）
	45	救急救命士が行う処置㉙	気管挿管（個人訓練）
	46	救急救命士が行う処置㉚	気管挿管（個人訓練）
	47	救急救命士が行う処置㉛	気管挿管（個人訓練）
	48	救急救命士が行う処置㉜	気管挿管（個人訓練）
	49	救急救命士が行う処置㉝	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	50	救急救命士が行う処置㉞	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	51	救急救命士が行う処置㉟	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	52	救急救命士が行う処置㊱	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	53	救急救命士が行う処置㊲	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	54	救急救命士が行う処置㊳	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	55	救急救命士が行う処置㊲	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	56	救急救命士が行う処置㊳	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	57	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	58	確認試験	気管挿管と心肺蘇生法（隊活動）
	59	総合シミュレーション①	想定訓練
	60	総合シミュレーション②	想定訓練

	61	総合シミュレーション③	想定訓練
	62	総合シミュレーション④	想定訓練
	63	総合シミュレーション⑤	想定訓練
	64	総合シミュレーション⑥	想定訓練
	65	消防署見学①	消防業務の理解と体験
	66	消防署見学②	消防業務の理解と体験
	67	消火栓除雪①	消防業務の一つである消火栓除雪を実施
	68	消火栓除雪②	消防業務の一つである消火栓除雪を実施

授業科目	応急処置ＩA	担当教員 実務経験	池田　悠輔 有：□　　無：■	救急救命士として、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	通年	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査・放射線 B	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	①臨床検査についての基礎知識を習得し、得られた検査データを基に患者の状態を推定する能力を養う。また、代表的な疾病と検査データに関する知識を習得する。②放射線の基礎知識と生物に与える影響を学ぶ。				
到達目標	基本的な臨床検査の内容や検査値などを説明することができる。 放射線の人体への影響について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・プリント資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験　100% ・臨床検査分野　70% ・放射線分野　30%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急救命士標準テキストの検査、放射線の知識の項目に沿って進めていく。予習、復習を心がけること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	臨床検査	臨床検査の免疫学的検査（免疫とアレルギー）を学ぶ。
	2	臨床検査	臨床検査の免疫学的検査（免疫と輸血）を学ぶ。
	3	臨床検査	臨床検査の血液学的検査（白血球の分類）を学ぶ。
	4	臨床検査	臨床検査の血液学的検査（凝固と線溶）を学ぶ。
	5	臨床検査	臨床検査の生化学的検査（肝機能と腎機能検査）を学ぶ。
	6	臨床検査	臨床検査の生化学的検査（糖と脂質、ホルモン）を学ぶ。
	7	臨床検査	臨床検査の生理学的検査（心電図検査）を学ぶ。
	8	臨床検査	臨床検査の生理学的検査（その他の生理学的検査）を学ぶ。
	9	臨床検査	臨床検査の微生物学的検査（細菌の種類と特徴）を学ぶ。
	10	臨床検査	臨床検査の微生物学的検査（細菌と疾患）を学ぶ。
	11	放射線　（杉本）	X 線診断（骨折）、放射能・放射線の基礎知識を学ぶ。
	12	放射線　（杉本）	X 線診断（胸部・腹部）、放射線被ばくを学ぶ。
	13	放射線　（杉本）	X 線診断（脳疾患）、放射線計測を学ぶ。
	14	放射線　（杉本）	X 線診断（心疾患）、放射線防護を学ぶ。
	15	放射線　（杉本）	CBRNE 災害、要救助者対応を学ぶ。

授業科目	臨床検査・放射線 B	担当教員 実務経験	杉本健 有：■　　無：□	臨床放射線技師として病院に勤務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	形態機能学 II (生理、生化学)A	担当教員	中川　健斗		
対象年次・学期	1 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人体を構成している細胞に共通する生理機能と血液の組織、免疫等を理解し、生命現象の基本である呼吸、循環の機能および消化、吸収、排泄の仕組みを理解する。				
到達目標	人体の作りと役割を細胞、組織の概念から説明できる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・生体のしくみ　第 3 版				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急救命士標準テキストを中心に、参考書を使用しながら進めていく。予習・復習をしっかりしないと定期試験に影響する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	生理学総論・情報の伝達	細胞の構造と機能・細胞内外間の物質の移動 興奮の発生と伝道・シナプス伝達・細胞内情報伝達
	2	筋系	筋収縮のメカニズム（骨格筋・平滑筋・心筋）
	3	神経系	神経の構造・中枢神経系（脳、脊髄)、末梢神経系
	4	血液系・免疫系	血液の成分と働き（赤血球・血小板）免疫のしくみ・白血球の役割・アレルギー
	5	循環器系	循環器系のしくみと働き・血管の構造と機能・血圧・リンパ液の働き
	6	呼吸器系	呼吸器系の構造・呼吸筋の働き
	7	消化器系	消化管の構造と機能・消化と吸収
	8	泌尿器系	腎臓の基本的機能・ネフロン・腎不全・利尿薬
	9	内分泌系	内分泌総論・HPA　axis・甲状腺ホルモン・膵臓ホルモンと糖尿病・性ホルモンなど
	10	生化学総論・糖類・糖質代謝	糖質の分類・グルコースの化学構造・解糖系・TCA 回路・電子伝達系・糖新生
	11	生化学総論・糖類	糖質の分類・グルコースの化学構造
	12	脂質代謝	脂質代謝・ケトン体・脂肪酸の生合成・コレステロールの生合成
	13	タンパク質・アミノ酸	タンパク質の分類・アミノ酸の分類・タンパク質代謝・アミノ酸代謝・尿素回路
	14	核酸の性質・DNA・タンパク質合成	核酸塩基の分類・DNA の構造・DNA の合成・mRNA の合成・タンパク質の合成
	15	ビタミン	ビタミンの分類（脂溶性、水溶性)、役割

授業科目	形態機能学Ⅱ(生理、生化学)A	担当教員 実務経験	中川健斗 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	国語・文章理解 B	担当教員	湊　久恵		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公務員試験（教養、SPI、SCOA）の国語及び文章理解について基礎力を養成する。				
到達目標	①社会人として必要最低限の国語表現ができる。　②文章理解は、与えられた文章のキーセンテンスを見つけ出すことができる。				
テキスト・参考図書等	・地方初級・国家一般職（高卒者）テキスト　国語・文章理解 ・漢検　漢字学習トレーニング 3 /準 2 /2 級　改訂第二版（日本漢字能力検定協会　編）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	国語辞典（電子辞書可、スマホ不可）を持参。また、ノートを準備すること。学生の能力により内容を変更することがある。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス	公務員試験の文章理解、四字熟語
	2	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	3	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	4	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	5	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	6	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	7	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	8	文章理解、国語	文章理解（空欄補充）、四字熟語
	9	文章理解、国語	文章理解（空欄補充）、四字熟語
	10	文章理解、国語	文章理解（文章整序）、四字熟語
	11	文章理解、国語	文章理解（文章整序）、四字熟語
	12	文章理解、国語	文章理解過去問チェック、四字熟語
	13	国語	国語過去問チェック、四字熟語
	14	文章理解、国語	消防官採用試験の傾向分析、四字熟語
	15	文章理解、国語	SPI 対策、SCOA 対策、四字熟語

授業科目	国語・文章理解 B	担当教員 実務経験	湊久恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	救急処置 B	担当教員	荒谷　和興		
対象年次・学期	3 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	158 回	時間数	315 時間
授業目的	救急活動は症状・病態に適応した救急資器材を選定し適正に活用することが重要であることから、救急活動、病態及び取扱資器材の特性を理解する。				
到達目標	傷病者の状況を多方面から捉えることが出来る観察力と、病態鑑別に必要な考察力を身につけ、適切な処置及び病院選定を行うことが出来る。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	各項目ごとに実施される試験等の結果を基に総合的に評価する
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急活動の中から病態を理解する。 病態に合わせた救急活動実技が主体。 メディカルラリーを通じ模擬現場活動を実施する。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	オリエンテーション	救急処置の進め方について
	2	オリエンテーション	救急処置の進め方について
	3	感染症対策①	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	4	感染症対策②	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	5	感染症対策③	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	6	感染症対策④	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	7	感染症対策⑤	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	8	感染症対策⑥	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	9	感染症対策⑦	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	10	感染症対策⑧	感染のメカニズムとそれに対する予防処置について
	11	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	12	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	13	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	14	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	15	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	16	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	17	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	18	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	19	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	20	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成

	21	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	22	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	23	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	24	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	25	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	26	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	27	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	28	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	29	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	30	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	31	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	32	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	33	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	34	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	35	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	36	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	37	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	38	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	39	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	40	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	41	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	42	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	43	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	44	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	45	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	46	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	47	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	48	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	49	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	50	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	51	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	52	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	53	CBL（ケースベースラーニ	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成

		ング）	
	54	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	55	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	56	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	57	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	58	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	59	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	60	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	61	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	62	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	63	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	64	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	65	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	66	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	67	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	68	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	69	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	70	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	71	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	72	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	73	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	74	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	75	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	76	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	77	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	78	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	79	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	80	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	81	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	82	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	83	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	84	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	85	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成

	86	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	87	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	88	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	89	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	90	CBL（ケースベースラーニング）	救急活動についての流れや病態の理解・レポート作成
	91	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	92	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	93	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	94	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	95	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	96	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	97	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	98	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	99	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	100	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	101	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	102	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	103	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	104	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	105	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	106	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	107	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	108	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	109	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	110	コミュニケーションスキル	傷病者に対するコミュニケーション技法
	111	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	112	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	113	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	114	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	115	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	116	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	117	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	118	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	119	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	120	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	121	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	122	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	123	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	124	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	125	メディカルラリー	傷病想定と現場活動

	126	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	127	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	128	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	129	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	130	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	131	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	132	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	133	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	134	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	135	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	136	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	137	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	138	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	139	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	140	メディカルラリー	傷病想定と現場活動
	141	外傷処置	外傷病院前救護実習
	142	外傷処置	外傷病院前救護実習
	143	外傷処置	外傷病院前救護実習
	144	外傷処置	外傷病院前救護実習
	145	外傷処置	外傷病院前救護実習
	146	外傷処置	外傷病院前救護実習
	147	外傷処置	外傷病院前救護実習
	148	外傷処置	外傷病院前救護実習
	149	外傷処置	外傷病院前救護実習
	150	外傷処置	外傷病院前救護実習
	151	外傷処置	外傷病院前救護実習
	152	外傷処置	外傷病院前救護実習
	153	外傷処置	外傷病院前救護実習
	154	外傷処置	外傷病院前救護実習
	155	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する
	156	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する
	157	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する
	158	総合活動演習	これまで学んだ内容を総合的に実践する

授業科目	救急処置 B	担当教員 実務経験	藤島　輝 有：□　　無：■	救急救命士として、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	3 年・前期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	外傷総論 B	担当教員	阿部　鯛一		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	外傷病院前救護についての概要、観察、処置について学ぶ。				
到達目標	外傷病院前救護の概念、知識、救急活動、外傷病態について説明ができる。　　災害時の現場活動を説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	80	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	20	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	講義形式とする。前半と後半で学習到達度確認のため、まとめを行う。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	外傷（損傷）の定義	外傷の疫学
	2	外傷（損傷）の分類	鈍的外傷・鋭的外傷・創傷の分類
	3	受傷機転からみた外傷の特徴	傷病者の状況と受傷機転の評価
	4	外傷による障害の起こり方	気道閉塞・呼吸障害・循環障害・中枢神経障害
	5	外傷による死因	外傷死による 3 つのピークと死因
	6	現場トリアージ	重症度・緊急度の判断・現場トリアージ
	7	前半のまとめ	理解度確認
	8	頭部外傷・顔面・頸椎（頸髄）損傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
	9	胸部外傷・腹部外傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
	10	骨盤骨折・四肢外傷	外傷の種類・病態・観察のポイント・処置
	11	特殊病態	小児外傷・高齢者外傷・妊婦外傷
	12	災害時トリアージ（1）	トリアージ区分・トリアージ方法（トリアージ）
	13	災害時トリアージ（2）	トリアージ区分・トリアージ方法（トリアージ）
	14	医療機関との連携	ドクターカー・ドクターヘリ・DMAT
	15	後半のまとめ	理解度確認

授業科目	外傷総論 B	担当教員 実務経験	阿部鯛一 有：■　　無：□	救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	薬理学 B	担当教員	吉田　楓		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	10 回	時間数	20 時間
授業目的	救急医療に必要な薬物の知識を習得する。				
到達目標	薬物とは何か、薬物の体内動態、投与経路の違いについて説明できる。 アドレナリン・乳酸リンゲル液・ブドウ糖の薬理作用を説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・クイックマスター薬理学（購入不要） ・図解薬理学（購入不要）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の 留意事項	プリントを中心に講義形式で行う。評価は試験の成績、各授業ごとに行う簡単な小テスト、参加態度などを総合的に判断する。詳細は初回の授業で説明。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	薬理学の基礎	薬理学の概要、薬物と法令、薬物と作用、薬物受容体
	2	薬物動態	薬物の吸収・分布・代謝・排泄
	3	薬理作用に影響を与える要因	薬理作用に影響を与える要因
	4	自律神経系	交感神経作用薬、副交感神経作用薬
	5	中枢神経系	向精神薬
	6	物質代謝系	内分泌系、糖代謝と糖尿病治療薬、輸液製剤
	7	心臓血管系	高血圧治療薬、狭心症治療薬、抗凝固薬
	8	日常的によく使われる薬	抗炎症薬、抗アレルギー薬、感染症治療薬
	9	まとめ①	問題演習
	10	まとめ②	問題演習

授業科目	薬理学 B	担当教員 実務経験	吉田楓 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	臨床検査・放射線 A	担当教員	星　直樹		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	①臨床検査についての基礎知識を習得し、得られた検査データを基に患者の状態を推定する能力を養う。また、代表的な疾病と検査データに関する知識を習得する。②放射線の基礎知識と生物に与える影響を学ぶ。				
到達目標	基本的な臨床検査の内容や検査値などを説明することができる。 放射線の人体への影響について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト ・プリント資料				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100	定期試験　100% ・臨床検査分野　70% ・放射線分野　30%
	レポート	0	
	小テスト	0	
	提出物	0	
	その他	0	

履修上の留意事項	救急救命士標準テキストの検査、放射線の知識の項目に沿って進めていく。予習、復習を心がけること。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	臨床検査	臨床検査の免疫学的検査（免疫とアレルギー）を学ぶ。
	2	臨床検査	臨床検査の免疫学的検査（免疫と輸血）を学ぶ。
	3	臨床検査	臨床検査の血液学的検査（白血球の分類）を学ぶ。
	4	臨床検査	臨床検査の血液学的検査（凝固と線溶）を学ぶ。
	5	臨床検査	臨床検査の生化学的検査（肝機能と腎機能検査）を学ぶ。
	6	臨床検査	臨床検査の生化学的検査（糖と脂質、ホルモン）を学ぶ。
	7	臨床検査	臨床検査の生理学的検査（心電図検査）を学ぶ。
	8	臨床検査	臨床検査の生理学的検査（その他の生理学的検査）を学ぶ。
	9	臨床検査	臨床検査の微生物学的検査（細菌の種類と特徴）を学ぶ。
	10	臨床検査	臨床検査の微生物学的検査（細菌と疾患）を学ぶ。
	11	放射線　（杉本）	X 線診断（骨折）、放射能・放射線の基礎知識を学ぶ。
	12	放射線　（杉本）	X 線診断（胸部・腹部）、放射線被ばくを学ぶ。
	13	放射線　（杉本）	X 線診断（脳疾患）、放射線計測を学ぶ。
	14	放射線　（杉本）	X 線診断（心疾患）、放射線防護を学ぶ。
	15	放射線　（杉本）	CBRNE 災害、要救助者対応を学ぶ。

授業科目	臨床検査・放射線 A	担当教員 実務経験	杉本健 有：■　　無：□	臨床放射線技師として病院に勤務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	国語・文章理解 A	担当教員	湊　久恵		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	公務員試験（教養、SPI、SCOA）の国語及び文章理解について基礎力を養成する。				
到達目標	①社会人として必要最低限の国語表現ができる。　②文章理解は、与えられた文章のキーセンテンスを見つけ出すことができる。				
テキスト・参考図書等	・地方初級・国家一般職（高卒者）テキスト　国語・文章理解 ・漢検　漢字学習トレーニング 3 /準 2 /2 級　改定第二版（日本漢字能力検定協会　編）				

評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	60	定期試験・小テスト等を基に総合的に評価する。
	レポート	0	
	小テスト	30	
	提出物	0	
	その他	10	

履修上の留意事項	国語辞典（電子辞書可、スマホ不可）を持参。また、ノートを準備すること。学生の能力により内容を変更することがある。

履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容
	1	ガイダンス	公務員試験の文章理解、四字熟語
	2	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	3	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	4	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	5	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	6	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	7	文章理解、国語	文章理解（内容把握）、四字熟語
	8	文章理解、国語	文章理解（空欄補充）、四字熟語
	9	文章理解、国語	文章理解（空欄補充）、四字熟語
	10	文章理解、国語	文章理解（文章整序）、四字熟語
	11	文章理解、国語	文章理解（文章整序）、四字熟語
	12	文章理解、国語	文章理解過去問チェック、四字熟語
	13	国語	国語過去問チェック、四字熟語
	14	文章理解、国語	消防官採用試験の傾向分析、四字熟語
	15	文章理解、国語	SPI 対策、SCOA 対策、四字熟語

授業科目	国語・文章理解 A	担当教員 実務経験	湊久恵 有：□　　無：■	
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		

授業科目	病理学 A	担当教員	曾我部　いづみ		
対象年次・学期	1 年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15 回	時間数	30 時間
授業目的	人体の構造と機能において正常から逸脱する症状・徴候のメカニズムに共通する現象を理解する。				
到達目標	疾患の成り立ちから回復の過程までを体系的に説明することができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂　第 10 版　救急救命士標準テキスト				

評価方法・評価基準

評価方法	評価割合(%)	評価基準
試験	90	定期試験等を基に総合的に評価する。
レポート	0	
小テスト	0	
提出物	0	
その他	10	

履修上の留意事項	病態論を参考書を元に解説します。救急救命士標準テキストとも照らし合わせながら進めていく。救急救命士標準テキストは、予習を行う際に活用すること。 ①遅刻・中途退室 ②私語・携帯の電源 ③居眠り ④提出物 ⑤その他　授業の進行に差し障りのある行為に対する諸注意。

履修主題・履修内容

回	履修主題	履修内容
1	病理学概論	疾病の一般
2	病理病態論	炎症・感染症（1）
3	病理病態論	炎症・感染症（2）
4	病理病態論	循環障害（1）：概要と局所循環障害
5	病理病態論	循環障害（2）：局所循環障害
6	病理病態論	細胞障害（1）：退行性病変と進行性病変
7	病理病態論	再生と創傷治癒
8	病理病態論	細胞障害（2）：代謝障害と疾病
9	病理病態論	免疫（1）
10	病理病態論	免疫（2）
11	病理病態論	腫瘍
12	病理病態論	先天異常(1)
13	病理病態論	先天異常(2)
14	病理病態論	老化
15	病理病態論＆まとめ	病因：生理学的要因、これまでのまとめ

授業科目	病理学 A	担当教員 実務経験	曾我部いづみ 有：■　　無：□	歯科医師であり、大学病院において口腔外科医員として勤務し、当該科目の教育を行う
対象年次・学期	1 年・後期	担当教員 実務経験		
授業形態				
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		
		担当教員 実務経験		